「平成 22 年度　特別支援教育夏季研修講座

探そう！特別支援教育のヒント」に参加して

せたな町立若松小学校　佐々木　朗

１．日時　平成２２年８月８日(日)　１３：１５～１６：３０

２．場所　北海道特別支援教育センター（札幌市中央区円山）

３．テーマ　「関係機関が連携した支援の実際」
　　芽室町役場子育て支援課　西科純課長　有本和晃主査

４．内容

帯広市のベッドタウンとして町の人口、そして子どもたちの人口も微増している芽室町では、元教育長だった現町長が町長選立候補の公約の第一として、「子どもに優しい町作り」をかかげた。町長になって、始めたことは、まず組織の改革からである。今まで発達障害の人たちの担当する部署としては、学齢期前までが、保健、小・中・高時代が教育委員会、それ移行が福祉というように分けられており、その橋渡しがうまくいっていないところがあった。芽室町では、それを子育て支援課という一つの課を新しく作り、そこで発達支援が必要な人たちをサポートした。

また、全ての子どもたちにサポートファイルと称して、生まれてから就労まで、保護者と関係機関が連携しながら、発達の状況を記したファイルを作り、子育て支援課の保管とした。「めむたっち」と呼ばれ、子どもが小さな時からの成育について、保護者の理解のもと、きちんと把握できるシステムを作った。

さらに、専門職員を 2 名新規に雇用し、行政のすきまに陥っている人がないように、関係機関と連携を取りながら、検査や発達支援の相談などに応じている。

そのような取り組みの中で、「子そだてに優しい町」ということで、芽室町に引っ越してくるなどの状況も生まれてきており、結果が出つつある。

お話は、子育て支援課の課長さんが、この課を作るに当たって、視察で情報を得たり、関係部署との連携に奔走し、また、専門職員を雇傭するまでの苦労の話、そして、今やっていること、そしてこれからの展望について話された。後半は、専門職員として、心理買うセラーとして招かれた職員から、発達支援センターの実際についての話があった。

５．感想

夏休み中の日曜日、しかもうだるような暑さではあったが、木曜日から４日間に渡って

集中して行われた夏季研修講座には、全道からたくさんの先生方、義務教育、幼稚園、関係機関職員などが集っていた。特別支援センターには初めていったが、札幌円山動物園のすぐ裏側の小高い山の麓にあり、まわりは全て緑に包まれている中に建つ、立派な建物である。もちろん中に一歩入るとエアコンが効き、汗がすっと引いていくという感じである。

本校のおける特別支援教育においても、役場健康衛生課、隣町の関係機関と連携をとりながら指導を進めているが、そのことについては、評価できると思う。

これからの課題として、町ぐるみでの幼稚園・保育所から小学校への引き継ぎ、小学校から中学校、中学校から高等学校などであろう。それも、芽室町のように小さい頃からの記録が系統立ててあると、その子の育ちの背景などもわかり、適切な指導がしやすくなると思う。

昨年度末から今年度にかけて、数回の研修会に参加することができた。一つ一つで学ぶことがあった。これからも書籍やネット、町や管内の研究団体での研修などあらゆる機会をとらえながら、研鑽を積んでいきたい。